



ております。

弊社では、グローバル市場においても足で稼ぐ生きた情報を収集すべく、充実した社内体制と外部ネットワークを構築し、多数の海外調査を実施しております。

『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査のメニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は  
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

---

## WEEKLY NEWS

---

### ◆電池材料:出光興産が次世代電池用固体電解質を開発(6月15日)

出光興産は、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が推進するEV用全固体電池の基盤技術確立を目的としたプロジェクトに参画することを発表した。

本取組みは、日本がEVで世界をリードすることを目的とし、全固体電池をいち早く実用化し、EVへの搭載をオールジャパンで推進するプロジェクトである。

EVの市場拡大が想定される中、車載用電池においては安全性・耐久性・航続距離の向上のニーズが高まっており、全固体リチウムイオン電池の実用化・量産が急がれている。

全固体電池に用いられる固体電解質は硫化水素が原料となる。この硫化水素についてこれまで石油精製で蓄積してきたハンドリング技術と、石油化学製品への応用技術を有することが出光興産の強みである。また、約20年に及ぶ研究開発を通じ、固体電解質等に関する特許出願は電池材料メーカーとして最多の件数を有する。

本年7月にはリチウム電池材料室を設置し、さらに取り組みを強化する。2020年代の市場投入を目標として、EVや産業機器の電池向けに市場開拓を進めていくとしている。

### ◆レアガス:エア・ウォーターがレアガス(キセノン・クリプトン)の製造設備の新設を発表(6月15日)

エア・ウォーターは、レアガス(キセノン・クリプトン)の安定供給と事業の拡大を目的に、加古川工場にレアガスを製造する設備を新設することを発表した。

同社は、神戸製鋼所加古川製鉄所内に深冷空気分離プラントを設置し、製鉄プロセスで必要となる酸素・窒素・アルゴンの供給を行っているが、2017年10

月に設置したプラントにレアガスの製造設備を新たに設置することとした。

製造能力はキセノンが 113.6 千 L/年、クリプトンが 880.9 千 L/年となる。2019 年 3 月末までに製造設備の設置を完了し、4 月より製造を開始する予定としている。

◆ゴム製品：ニッタのインド子会社が新工場の開所式を実施(6 月 12 日)

ニッタのインドにおける連結子会社 Nitta Corporation India Pvt. Ltd. (NCI) は、昨年 4 月より計画を進めていた新工場が完成し、開所式を行ったと発表した。

新工場の主な加工品目はベルト製品、ホース・チューブ製品であり、2018 年 4 月より本格稼働をしている。

NCI では、事業を展開するインド市場の需要の高まりに対応するべく、新工場への移転を進めてきており、今後は二次加工機能を強化し、よりタイムリーな納期対応に取り組むとしている。

◆日本合成化学が偏光フィルム用「OPL フィルム」生産設備を増設(6 月 12 日)

日本合成化学は、光学用ポリビニルアルコール(PVOH)フィルム『商品名：OPL フィルム』の生産設備を増設することを決定したことを発表した。

「OPL フィルム」は、液晶テレビやスマートフォンなどの液晶ディスプレイの主要部材である偏光フィルムの素材として使用されており、液晶ディスプレイの新興国への普及や画面サイズの大型化などにより、光学用ポリビニルアルコールフィルムの需要は増加すると予想されている。

同社は熊本工場に第 8 系列生産設備(年産 2,100 万㎡)を増設する予定であり、これにより、第 8 系列完成後の生産能力は年産合計 12,700 万㎡となる。なお、同社では、第 8 系列は液晶テレビなど画面サイズ大型化にともなう大型偏光フィルムに対応した広幅 OPL フィルムの生産が可能であるとともに、更なる技術改良を加えた設計であり、変化する市場のニーズに対応した設備としている。

増設設備の完工予定は 2019 年度第 4 四半期(2020 年 3 月)としている。

◆表面加工：デクセリアルズが鏡向け防曇防汚ソリューションを開発(6 月 12 日)

デクセリアルズは、鏡の最表面を加工することで、汚れのとれやすさと曇りにくさを向上させる防曇防汚ソリューションを開発、提供開始することを発表した。

本ソリューションは液晶ディスプレイの最表面への指紋や汚れをとれやすくするために、鏡に最適化した材料を独自のプロセスでコーティングすることで、撥水・撥油でありながら水蒸気を吸収する層を高い耐久性で形成し、汚れのとれやすさ(防汚性)とくもりにくさ(防曇性)を向上させる。

本ソリューションは大手住設メーカーより8月に発売される洗面化粧台に採用され、汚れが付いた場合でもコーティング層が水や油をはじいて汚れを浮き上がらせ、容易に拭き取ることが可能となっている。

防曇防汚技術へのニーズは、車載部品や医療用材料などにおいても高まっており、今後、同社は自動車やライフサイエンス領域をはじめとする様々な分野に、防曇防汚技術を組み合わせて付加価値の高い製品を提案し、事業の拡大を図るとしている。

◆アルミ缶：昭和アルミニウム缶がベトナム第二製造拠点の竣工式を挙  
行（6月11日）

昭和電工の連結子会社である昭和アルミニウム缶は、ベトナム中部のダナン市近郊において建設を進めていた新工場を完成させ、竣工式を行ったと発表した。

同工場は、昭和アルミニウム缶のベトナム現地法人であるハナキャン・ジョイント・ストック・カンパニー（以下、ハナキャン社）の同国2番目となる生産拠点で、年産7億缶の缶体生産ラインを有する。

また、同工場建設とあわせてハノイ市近郊の工場で缶蓋の能力増強を進めており、同増強が完了する本年10月にはハナキャン社の2拠点合計の缶体・缶蓋の生産体制は年産20億缶になるとしている。

◆繊維：東レが新たなテキスタイル・縫製品の開発拠点を設立（6月11日）

東レは、瀬田工場（大津市）の工場内に生地や縫製品の開発拠点「テクノラマGⅢ」を新たに開設したと発表した。

「テクノラマGⅢ」は従来の人工気象室の機能を拡充し、北極圏や南極圏のような極低温低湿環境や降雨量を多くしてゲリラ豪雨のような気象条件を再現するなど、日常生活における急激な温度変化を伴う実験も可能となる。

そのほか、「人体・運動測定評価室」には筋電計や発汗計、モーションキャプチャーなどの解析設備を導入し、人間工学に基づく生理解析やスポーツ工学に基づく動作解析を可能にした。

さらに、東レグループの繊維素材・商品開発に関する情報の管理・発信機能を拡充するため、「テキスタイルライブラリー」および「素材・商品展示室」を整備したほか、共同開発拠点となる「オープンラボ」を設置し、社内外との連携強化により、グローバルな連携体制を一層強固にすることを目指すとしている。

◆価格改定

・住友化学がポリエチレンとポリプロピレンを7月1日納入分より値上げ

- 値上げ幅は、16 円/kg以上
- ・JNC がオキソ誘導品を 7 月 1 日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、20 円/kg以上
- ・デンカが ABS 樹脂、デンカ IP、透明樹脂、クリアレンを 7 月 2 日出荷分  
より値上げ  
値上げ幅は、18 円/kg以上
- ・日本製紙が壁紙原紙を 7 月 21 日出荷分より値上げ  
値上げ幅は、15%以上



株式会社 工業市場研究所

TEL:03-6459-0165 FAX:03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

◆メールの設定により、読み難くなる場合がございます。ご容赦ください。

◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ [h-ikeda@kohken-net.co.jp](mailto:h-ikeda@kohken-net.co.jp)

